



がるがも



第47号

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo>

2017年〈平成29年〉10月

秋を迎えて

今年の夏は雨が続いた冷夏でした。その影響でしょうか、例年より早く8月からRSウイルスが大流行しました。当院でもRSウイルス感染症の入院患者様が増えました。RSウイルスは感染力が強く、心疾患など基礎疾患を有する児は重症化しやすいので、8月末から9月半ばにかけて一部の病棟にて入院制限を行いました。そのため、この期間は地域の先生方からの入院依頼に十分にお応えすることができず申し訳ございませんでした。幸い流行は一段落し、現在は通常通りの対応が可能となっております。どうぞ、これまで通り患者様をご紹介いただければと思います。

さて、小児がん患者様とご家族が気軽に集える患者サロン「いっぷく亭」を、9月にオープンしました。毎週火曜日の10時から16時まで、場所は周産期棟1階のカンファレンスルームです。「いっぷく亭」では、自らもがん患者の家族としての経験があるスタッフ(ピアサポーター)が対応します。医師に相談するほどではないちょっとしたこと、相談しにくいことなどを、仲間同士でおしゃべりしたり、先輩からアドバイスをもらったりしていただければと思います。この運営は、認定NPO法人「ミルフィュー小児がんフロンティアーズ」の皆さんの協力で行われています。まずは当

病院長 星岡 明



院の患者様とご家族を対象として開始しましたが、いずれは県内の小児がん患者様に広げていきたいと考えています。「いっぷく亭」についてのご質問などありましたら、こども・家族支援センターまでご連絡ください。

また、10月の人事異動で、眼科の高相道彦部長が千葉リハビリテーションセンターに転出となり、千葉大学から齋藤麻美子医師を迎えました。これにより、眼科は、平野香織主任医長、齋藤麻美子医長の体制となりました。なお、高相先生には引き続き週1回外来に来ていただいています。また、齋藤医師も当院での勤務経験があり、当院での外来診療も行っていました。先生方そして患者様にはご迷惑がかからないようにいたしますので、これまで通り、眼科へのご紹介をよろしくお願いいたします。

平成29年10月

研修会・公開講座のお知らせ

●平成29年度小児等在宅医療連携拠点事業 超重症児を受け入れる訪問看護師研修

<講義編>

日 時：平成29年11月18日（土）
9:15～16:30

会 場：千葉県こども病院第1会議室

<実施編>

日 時：平成30年2月1日（木）

会 場：千葉県こども病院第3会議室

●第18回千葉県こども病院県民公開講座

日 時：平成30年1月13日（土）
13:30～15:30

会 場：きぼ一る13階 千葉市ビジネス支援センター 会議室

内 容：「気にしてほしい骨や関節の病気」

千葉県こども病院 整形外科部長 西須 孝

●平成29年度 第2回児童虐待防止研修会

日 時：平成30年2月3日（土）

会 場：千葉県弁護士会館3階講堂

●第11回千葉県小児臨床症例研究会

日 時：平成30年2月28日（水）
19:30～21:00

会 場：千葉県こども病院第1会議室



診療科紹介
アレルギー・
膠原病科

部長
富板 美奈子



アレルギー・膠原病科では、アレルギー疾患、リウマチ・膠原病、自己炎症性疾患、免疫不全症の診療を行っております。

【アレルギー疾患】食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息が主な対象疾患です。特に食物アレルギーは近年、患者数が増加しており、社会問題ともなっています。症状誘発に関する詳細な問診を行い、血液検査データや皮膚テストを参考にして、患者様が最小限の食物除去で過ごせるように診療を進めています。さらに、食物経口負荷試験によって安全摂取量を確認し、自宅で摂取を進める経口免疫療法を行っております。負荷試験は入院で行いますが、希望される方・必要となる方が多いので、ご希望通りの日時では入院予約が取れないこともございます。アトピー性皮膚炎には、スキンケア、ステロイド外用薬を基本とした薬物療法、悪化因子の除去、を3本柱とした治療を行い、重症児は1～2週間の入院で治療する場合があります。気管支喘息は、呼吸機能検査等を参考にして個々の患者様の重

症度を判定し、吸入ステロイド薬を中心とした治療方針を構築します。生物学的製剤を使用する場合があります。免疫療法(減感作療法)も行っており、従来通りの注射による方法と、年長の方では舌下免疫療法も可能です。

【リウマチ・膠原病・自己炎症性疾患】若年性特発性関節炎、全身性エリテマトーデス、混合性結合組織病、シェーグレン症候群などの膠原病、炎症を抑制するメカニズムの異常による自己炎症性疾患を診療しています。当科は日本に80数名しかいない小児リウマチ専門医が3名在籍しています。豊富な経験と最新の情報をもとに、関係各科と連携し、それぞれの患者様にとってより良い治療法を選択しています。生物学的製剤の治験への参加や、「診断の手引き」の作成、診療ガイドラインの作成にも関わっています。

【免疫不全症】免疫異常が疑われる患者様のスクリーニング検査を行い、必要な患者様には遺伝子検査を行います。先天性無ガンマグロブリン血症の患者様へのガンマグロブリンの補充療法、一部の免疫不全症では免疫抑制薬、抗サイトカイン療法を組み合わせでの治療も行っています。感染症科や血液腫瘍科とも連携して診療しています。

これらの疾患のある患者様、疑いのある患者様がおられましたら、遠慮無くご相談ください。

また、当科では後期研修終了後のサブスペシャリティ研修も行っております。特に膠原病は原因の解明や治療法の開発など、今後の伸びしろの大きい分野です。ご興味のある方は、お問い合わせください。

診療科紹介
整形外科

医長
及川 泰宏



こども病院の整形外科は首から手足の先まで、骨・筋肉・関節に関する病気を、生まれてすぐから成人になっていくまで診療を行っております。こどもの整形外科の代表的疾患である先天性股関節脱臼、先天性内反足、筋性斜頸のほかにも化膿性関節炎や骨髄炎などの感染性疾患、多発性外骨腫や好酸球性肉芽腫症などの腫瘍性疾患、軟骨無形成症や骨形成不全症などの骨系統疾患、若年性特発性関節炎などの自己免疫性疾患、成長障害に伴う脚長不等など治療に難渋する病気についても積極的に治療を行っております。こどもの整形外科疾患に対する治療は年齢や発達の段階に応じて異なります。適切な治療を選択するために長期的な通院をはじめ、ギプス、装具療法などの保存療法、入

院での牽引療法、リハビリテーション、そして様々な手術など幅広く行なっています。またこどもの骨や関節は成人とは異なるため、レントゲン、CT、MRIの他に侵襲の少ない超音波検査を積極的に取り入れています。自己免疫性疾患やアレルギー疾患、代謝・内分泌疾患、遺伝性疾患なども多く、小児科をはじめとして他の診療科とも協力をしながら診療を行っております。

整形外科の一般外来診療は月曜(午前)、火曜(午前・午後)、水曜(午前)に行っています。この他に専門的な疾患に対応すべく、専門の医師による手の外科外来、側弯症外来、腫瘍外来を行っております。

現在、当科の外来には千葉県のみならず関東を中心とした東日本全域から広く患者様をご紹介いただいております。外来患者数の増加にともない、待ち時間がとても長く皆様にご迷惑をおかけいたしますが、一人ひとり丁寧な診察を心がけております。お気付きの点がありましたらお声かけください。

〈千葉県こども病院 登録医のご紹介〉

医療法人幸樹会おゆみのクリニック小児科

〒266-0032 千葉市緑区おゆみ野中央4-26-4
TEL 043-292-2511 FAX 043-292-2512

おゆみのクリニックで小児科を担当している高柳直子です。

当院は外科出身の女性院長が平成4年に消化器内科主体に開院しました。小児科受診者も多く、平成7年から高柳が小児科専門として診療を担当しています。子どもたちが適切な医療を受けられるよう、こども病院の先生方はもちろん、近隣の先生方にもご紹介、ご教示いただいております。お忙しい中のご高診やアドバイスありがとうございます。ただ自院でできることはなるべく頑張ろうと、こども病院のカンファレンスや医師会・小児科医会の研修会に出席して医療の変化について行けるようにしています。

クリニックの性質上、お子様だけでなく、風邪やアレルギーなどの症状の場合は、ご両親や時には祖父母など同居されている方々の診察をすることも多々あり、家族の症状も参考になることで、ファミリードクターとしての機能を感じる昨今です。

診療時間 9時～12時
15時～17時
8時半～9時、14時～15時
予防接種・健診

休診日 水曜日・土曜日午後
日曜日・祝祭日



高柳直子医師

最近はこども病院の精神科カンファレンスで勉強させていただく機会があり、自身の昼休み時間を使って、時間のかかる発達障害などのお子さんの相談などもうけております。毎回力のなさを実感する日々ですが、子育てに悩むご両親と患児の困り感が少しでも和らぐように、QOLがよくなるようにと努力しています。

今後たくさんお世話になることと思いますがよろしくお願いたします。



クリニック外観



小児科待合室

医療法人芙蓉会五井病院小児科

〒290-0056 千葉県市原市五井5155
TEL 0436-25-5151 FAX 0436-23-7541

みなさん、こんにちは。五井病院小児科の染谷です。当院は五井駅西口から徒歩10分の所にあります。平成26年には創立50周年を記念して新棟が完成し214床となりました。私は平成22年10月小児科開設にあたり着任し、7年がたちました。病院の小児科ではありますが、小児病床がありませんので、こども病院はじめ帝京大学ちば総合医療センター・千葉ろうさい病院等に入院のお願いをさせて頂いております。この場をお借りしてお礼申し上げます。

当科の特長は「外来診療」と「健診・予防接種」を別の建物で行っている点です。病気で受診する子と健診に来た子が接触することが無いため、特に乳児の予防接種は好評頂いており、当科の自慢です。診療は主に私が担当しておりますが、毎週木曜の午前は千葉大学の石和田稔彦先生が、午後には帝京大学ちば総合医療センター小児科の先生方が交代で担当しております。午前が石和田先生で午後が太田節雄教授という日もあります。このよう

診療時間 午前9時～12時
午後2時半～5時(木曜日のみ2時～5時)
乳児健診・予防接種は午後1時～2時半

休診日 土曜日午後・日曜・祝祭日

な非常勤の先生方の顔ぶれも当科の自慢です。

五井は都心に最も近いディーゼル鉄道である小湊鉄道の起点です。朝晩五井駅で耳にするキハの警笛は私の希望と活力の源です。五井病院小児科は小湊鉄道ほどの小さな診療科ですがディーゼル気動車に負けないよう今後も地域に根ざして診療をしていく所存です。皆様には、今後ともご指導賜れますようお願い申し上げます。



染谷小児科医長と健診センターおよび小児科外来のメンバー



五井病院 外観